

令和4年3月31日

令和3年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 教養教育院
氏 名 瀬戸美奈子

活動テーマ	桑名市適応指導教室における不登校の子どものキャリア教育
実施期間	令和3年5月 ～ 令和4年3月
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>①キャリアに関する個別の指導計画作成 (5月～9月、2月～3月)</p> <p>5月から7月については、コロナ禍のために適応指導教室を訪問することができず、主にメールを中心に大学教員および適応指導教室指導員と協議しながら個別の指導計画を作成した。2学期は大学教員および学生が適応指導教室を訪問し、通級する児童生徒の参与観察を行い収集した情報をもとに、指導員と事例検討を行い、通級生のキャリア支援のための個別の指導計画の修正を行った。</p> <p>②キャリアに関する授業実践 (10月～3月)</p> <p>10月よりキャリアに関する授業実践の準備を始め、通級生の参与観察、指導員への聞き取りをもとに、児童生徒の課題について検討した。学生たちが研究論文を読みながら協議を重ね授業をデザインし、子どもたちがお互いに関心を持ち、仲間としての感覚を持てるということを目的に、それぞれが好きなことややりたいことを記入するカレンダーを作成することとした。カレンダーを作成するための教材の準備、授業の指導案作成をすべて学生主体で行った。授業のデザインや指導案については適応指導教室指導員にも検討してもらい、助言をもらいながら、個別の指導計画を踏まえて、子どもの状況や目標に応じた個別の関わりや声掛けなどの配慮事項にも留意した。2月初めに実施予定であったがコロナによる緊急警戒宣言のために実施できず、指導員にプログラムを提供する形となった。</p> <p>③不登校児童生徒のキャリア教育についての実践報告</p> <p>令和元年度、令和2年度、令和3年度の3年間のキャリア教育実践や成果をまとめ、冊子を作成し、適応指導教室に配布した。</p> <p>(2) 地域への貢献 (地域の発展・活性化への寄与、広がり)</p> <p>アセスメントをもとに個別の指導計画を作成したことによって、より適切な支援を行うことができた。不登校児童生徒へのキャリア教育という視点を持つことで、現実的な進学先をどうするかだけではなく、社会的な自立を主眼とした支援について考えていくことができた。成果を印刷物として配布することで、さらにそれをふまえて今後発展的に取り組むことが期待できる。</p>

(3) 共同実施者との連携状況

個別の指導計画作成のためのワークシート原案作成や他の適応指導教室との交流、キャリアに関する授業への助言は共同実施者である桑名市適応指導教室指導員が担当した。通級生に関する情報収集補助およびキャリアに関する授業デザイン、教材等の準備、指導案作成、授業実施は学生が行った。報告者は活動全体の方向性について、共同実施者と協議しながら、個別の指導計画についての指導助言を行った。定期的に共同研究者と報告者はミーティングを行い、密に成果を共有し、今後さらに連携しながら不登校対策を推進していくことを確認した。また学生も適応指導教室を訪問し通級生と関わる機会を持ち、研究と実践の両方の観点から活動について検討を行った。

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

今回キャリアに関する授業実践の主体となった学生4はいずれも報告者のゼミに所属しており、将来教員または心理職として子どもの心理的支援に関わる職業に就く予定である。また学校臨床心理学を専門に日々研究に取り組んでいる。今回、適応指導教室に通級する児童生徒および指導員の方々と交流し、共同で実践を行うことによって、研究と実践の両面から学びを深めることができた。さらに実践に関わることによって、今後学生たちが取り組むべき課題が見え、教員および心理職となるための資質向上の意識を高めることができた。

(5) イベント等開催実績（名称、実施場所、参加人数等）

2月に予定していた授業は新型コロナウイルス感染状況を鑑みて、実施することができなかった。令和3度については、適応指導教室指導員に教材および指導案を提供した。

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

これまで取り組まれてこなかった、不登校児童生徒へのキャリア支援について専門的な知見を踏まえたうえで実践を行うことができた。また個別の指導計画を作成することで、適切な支援の方向性を示すことができた。